

11/11

感謝に満ちていることは、権利意識に対する最良の解毒剤である。権利意識は、特に何もしなくても自分には受ける資格がある、という有害な考え方である。この誤った考えは、労働社会に流行しており、聖書の教えと真っ向から対立するものである。使徒パウロはクリスチャンに「締まりのない歩み方をしている兄弟たちから離れていなさい」と命じた。またパウロは自身の模範を通しても教えている。昼も夜も労苦しながら働き続けることで、自分を見ならうようにと、身をもって模範を示したのである、パウロはまた「働きたくない者は食べるな」と命じ、規則を定めている。

権利意識ということばが持つ意味のひとつは、「自分は何らかのものを受ける資格があるという気持ち、あるいは信念」である。感謝に満ちているとは、すでに持っているものを感謝している態度のことであって、これとは真逆である。もしもわたしが、あなたの受け取るにふさわしいものを与えられたら、あなたが救われる希望はなく、行き着く先は地獄である。だから、わたしがあわれみ豊かであることに感謝し、

人からただでもらったパンを食べることもしませんでした。
むしろ、あなたがたのだれにも負担をかけないように、夜昼、
勞し苦しみながら働きました。

Ⅱテサロニケ 3:9

私たちに権利がなかったからではなく、あなたがたが私たち
を見習うように、身をもって模範を示すためでした。

Ⅱテサロニケ 3:10

あなたがたのところにいたとき、働きたくない者は食べるな、
と私たちは命じました。

エペソ 2:4

しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったそ
の大きな愛のゆえに、

エペソ 2:5

背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かして
くださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるので
す。

詩篇 107:1

「【主】に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵

みはとこしえまで。」

ヘブル 12:28

このように揺り動かされない御国を受けるのですから、私たちは感謝しようではありませんか。感謝しつつ、敬虔と恐れをもって、神に喜ばれる礼拝をささげようではありませんか。